

商品名	商品内容
ComponentOne Studio Enterprise ユーザーライセンス	ASP.NET、WinForms、WPF、Silverlightのすべての機能をひとつにまとめたComponentOne Studioシリーズの最上位エディションです。本製品を使って開発したサーバーアプリケーションを配布する場合、運用するサーバーのCPUコア数に応じて別途コアサーバーライセンスの購入が必要です。
ComponentOne Studio for ASP.NET MVC ユーザーライセンス	専用のMVCプロジェクトテンプレートを収録し、モデルからリッチでインタラクティブなビューとコントローラーを生成します。JavaScriptライブラリであるWijmoが収録されており、グリッドやチャート、入力などのウィジェットを、MVCプロジェクトに組み込むことができます。本製品を使って開発したサーバーアプリケーションを配布する場合、運用するサーバーのCPUコア数に応じて別途コアサーバーライセンスの購入が必要です。
ComponentOne Studio for ASP.NET Web Forms ユーザーライセンス	グリッド、チャート、帳票のほかデータ出力、ナビゲーション、スケジュール部品など、40種類以上の必要なコンポーネントが収録されています。これらのコンポーネントは、クロスブラウザに対応し、開発期間を劇的に削減します。製品を使って開発したサーバーアプリケーションを配布する場合、運用するサーバーのCPUコア数に応じて別途コアサーバーライセンスの購入が必要です。
ComponentOne Studio for Silverlight ユーザーライセンス	軽量でリッチなUXを提供するSilverlightで実践的な業務アプリケーション開発を可能にします。新バージョンでは、タイル表示、組織図、リストボックスなど5種類のコンポーネントを追加しました。ランタイムフリー。
ComponentOne Studio for WinForms ユーザーライセンス	使いやすいデータグリッドとして実績のあるFlexGridやノンコーディングで各種チャートのデザインができるTrueChartなどを収録しており、業務システム開発で要求される機能を幅広くカバーします。ランタイムフリー。
ComponentOne Studio for WinRT XAML ユーザーライセンス	Visual StudioおよびExpression Blendであらゆるジャンルのアプリケーションを開発できるWindowsストアアプリ用コンポーネントセットです。グリッド、チャート、入力支援、データ出力、文書の表示など、幅広いカテゴリのコンポーネントを収録しています。ランタイムフリー。
ComponentOne Studio for WPF ユーザーライセンス	グリッド、チャート、帳票から入力支援まで幅広くカバーします。新バージョンではタイルやブックなど24個ものコンポーネントを追加し、多彩なテーマを使ってアプリケーションの外観を簡単に統一できます。ランタイムフリー。
ComponentOne Studio コアサーバーライセンス	ComponentOne Studio Ultimate、Enterprise、ASP.NET Wijmo、ASP.NET Web Forms、ASP.NET MVCの何れかの製品を使って開発したサーバーアプリケーションを配布する際、運用するサーバーのCPUコア数に応じて必要なライセンスです。2コアから設定があります。
ComponentOne Studio TouchToolkit ランタイムライセンス	ComponentOne Studio for WinForms、Enterpriseに含まれる「TouchToolkit for WinForms」の機能を組み込んで開発したアプリケーションを、配布する際に必要となるライセンスです。最小10バックから。
Wijmo Enterprise ユーザーライセンス	Wijmo ProfessionalにSpreadJSを追加したエディションです。業務アプリケーションに必要なHTML5対応JavaScriptウィジェットがワンセットになったライブラリ集です。デスクトップ用およびモバイル用の両方のWebアプリケーションを構築できます。Wijmoには、日本の業務アプリケーションに最適化された入力ウィジェットをはじめ、インタラクティブなチャートから機能豊富なデータグリッドまで、必要な機能がすべて含まれます。ランタイムフリー。
Xuni Enterprise ユーザーライセンス	Android、iOS、およびWindows Phoneのモバイルプラットフォームで、共通のAPIを使用したネイティブユーザーインターフェースを実現するために設計されています。また、Xamarin.Formsを利用したクロスプラットフォーム開発では、統合開発環境(Visual Studio、Xamarin Studio)を活用してC#とXAMLで記述したコードを共通化し、これまでとは違う次元の生産性でモバイルデバイス用アプリケーションが開発できます。